令和４年度

第１回　八代市社会教育委員会議

日時：令和４年１０月３１日（月）
１０時００分～
場所：八代市公民館　会議室 AB

次　第

１．開　　会

２．委嘱状交付

３．教育長挨拶

４．委員長挨拶

５．新規委員並びに職員紹介

６．令和４年度熊本県社会教育委員連絡協議会表彰伝達（中田委員）

７．議　　事

（１）令和４年度生涯学習課の主な事業について

（２）令和５年度八代市社会教育団体補助金予算案について

① 八代市地域婦人会連絡協議会

② 八代市子ども会連合会

③ 八代市ＰＴＡ連絡協議会

（３）八代市地域学校協働活動について

（４）令和５年度予算について

８．その他

９．閉　　会

第1回　八代市社会教育委員会議　名簿

	区　分	氏　　名	団　体　等　名	出　欠
1	新規	みやもと　のりこ 宮本　典子	八代校長会小学校部会代表 （八代市立金剛小学校長）	出席
2	新規	まつもと　たくや 松本　卓也	八代校長会中学校部会代表 （八代市立東陽中学校長）	出席
3		いまだ　ふみあき 今田　史昭	八代市PTA連絡協議会代表 （事務局）	出席
4	副委員長	みくりの　えみこ 三栗野　惠美子	八代市地域婦人会連絡協議会代表 （会長）	出席
5		たかくら　ちさこ 髙倉　知佐子	NPO法人八代市体育協会代表 （副会長）	欠席
6		てらお　けいこ 寺尾　惠子	八代市民生委員児童委員協議会代表 （副会長）	出席
7	副委員長	とくだ　たけはる 徳田　武治	八代地域代表（市民活動政策課推薦）	出席
8		なかだ　まさはる 中田　正春	坂本地域代表（坂本支所推薦）	出席
9	委員長	すすきだ　しんじ 薄田　眞治	千丁地域代表（千丁支所推薦）	出席
10		いきた　ふみあき 生田　文明	鏡地域代表（鏡支所推薦）	出席
11		いわもと　みえこ 岩本　美重子	東陽地域代表（東陽支所推薦）	出席
12		はしもと　かずお 橋本　和郎	泉地域代表（泉支所推薦）	出席

任期：令和3年8月1日～令和5年7月31日　　委員定数16人以内

１．令和４年度　生涯学習課の主な事業について

（１）人権教育事業

人権問題の正しい理解と認識を深めるため、地域と連携した取組や様々な学習機会の提供を行う。また、人権政策課や八代市人権問題啓発推進協議会をはじめとする関係機関・団体等の取組に参加し、人権同和問題の啓発推進に努める。

①　人権のまちづくり事業

八代校区、金剛校区、日奈久校区を推進校区に予定し、地域イベントでの啓発及び協議会だよりへの記事掲載や啓発ポスターの掲示など、地域と一体となった取り組みを行う。

②　様々な学習機会の提供

人権問題の正しい理解と認識を深めるため、家庭教育学級や公民館講座などを積極的に活用するとともに、講演会や社会教育指導員によるミニ講座を開催し学習機会の確保を行う。

③　連携事業

・八代地区人権同和教育夏期現地研修会
　　令和４年７月 27 日(水)・28 日(木)、８月１日(月)～3 日(水)
・第 46 回八代地区人権同和教育・人権啓発研究集会　令和４年７月 30 日(土)
・人権子ども集会フェスティバル in やつしろ　令和４年 12 月３日(土)(予定)
・お出かけ公民館講座「人権講演会」　令和５年１月(予定)
・八代人権同和教育推進協議会「総括学習会」　令和５年２月(予定)

（２）地域学校協働活動事業

地域学校協働本部を中心に、市内全ての小・中・特別支援学校（３９校）において活動を実施する。地域コーディネーターを委嘱（令和３年度中に３９校へ委嘱済）するとともに、統括コーディデーター（市社会教育指導員）による学校訪問等による支援を引き続き行う。

併せて、「地域未来塾」や「放課後子ども教室」についても地域の実情に合わせ継続して実施する。

令和２年度以降、地域学校協働本部の強化事業として位置付けている不登校・別室登校児童生徒に対する支援については、令和４年度も継続して強化事業として位置づけ、対応を強化していく。

（３）二十歳の集い（成人式）

令和４年４月１日から成年年齢が引き下げられるが、八代市ではこれまで通り２０歳を対象に実施する。名称については、八代市成人式から変更となった。

年度中に２０歳となる実行委員で組織された実行委員会にイベント等の企画運営を委託し実施する。

・対象者　平成１４年４月２日～平成１５年４月１日生まれの男女（外国人含）
※９９０人（令和４年４月１日現在）

・開催日　令和５年１月８日（日）午後２時開式

・会　場　八代トヨオカ地建アリーナ（八代市総合体育館）

（４）社会教育関係団体育成事業

社会教育団体の健全育成、活性化を促進し、生涯学習社会の構築を推進するため、社会教育関係団体の活動に対して助成等を行う。

〔助成実施予定団体〕

・八代市地域婦人会連絡協議会

・八代市子ども会連合会

・八代市ＰＴＡ連絡協議会

（５）青少年体験活動事業

家庭や学校では、体験できない野外活動等を取り入れた青少年体験活動事業を実施し、次代を担う青少年の健全育成を図る。

〔実施予定事業〕

・キッズチャレンジ２０２２
アウトドアスクール、陶芸教室、宿泊体験活動、親子体験活動　計４事業

（６）社会教育施設整備事業

市民に学習・研修・スポーツ・趣味を楽しむ機会を提供する生涯学習のための施設として整備する。

〔実施予定工事〕

・八竜山自然公園天文台等改修工事

（７）図書館管理運営事業

図書館運営方針の着実な履行と指定管理者による適切な管理運営が行なわれるよう指導・助言、進度調整を行い、市民に親しまれる図書館運営の実現を目指す。

（８）生涯学習推進事業

時代の変化や市民のニーズに沿った多様な学習機会や学習情報を提供する。

特に時代の変化に応じたスキルが学べるリカレント教育や誰一人取り残さないデジタル社会実現に向けた学習活動等に取り組む。

① やつしろ市民大学

〇前期

IT キャリアアップ講座、かんたんスマホ講座、からだいきいき健康講座、ものづくり講座、こころを癒すヨガ、実用書道講座、ためになる防災講座、プログラミングでゲームをつくろう　計８講座

〇後期開催予定

IT キャリアアップ講座、こころを癒すヨガ、アロマテラピー講座、はじめての絵だより、はじめてのクラフトバッグづくり、八代の歴史講座、フルマラソン講座、フラワーアレンジメント講座、金融リテラシー講座（シニア編）・（20～40 代編）　計 10 講座

〇公開講座

6 月：人生 100 年時代に向けた学びの必要性

3 月：未定　計 2 講座

②おでかけ公民館講座・公民館講座

親子パンづくり講座、これからのためのキャッシュレス講座、はじめてのスマホ講座（日奈久・坂本）、食育講座、人権講座、終活講座、フラワーアレンジメント講座等　　計 8 講座

③公民館講座かわら版

講座紹介、講座報告、かんたんスマホ講座等　計６号発行予定

④公民館講座ＷＥＢ版

人権教育講座、キャッシュレス講座、お菓子づくり講座、家庭教育講座等　計６本配信予定

⑤家庭教育学級

家庭教育学級研修会　　計２回開催予定

家庭教育通信　　計１号発行予定

（９）生涯学習推進大会「第１３回まなびフェスタ　やつしろ」

世代間交流や地域間交流を活性化し、より良い人づくり、まちづくりに繋げることを目的して、八代市における様々な学びの場や活動を紹介し、学習成果の発表の機会を設ける。

・開 催 日　令和４年１２月１０日（土）

・会　　場　八代市公民館及び周辺施設

・参加団体　八代市生涯学習自主講座クラブ、市内各学校、家庭教育学級など

・内　　容　Ⅰ．ホール部門（講演会：河合敦さん、自主クラブ活動発表など）

Ⅱ．体験活動部門（市内高校生による体験コーナーなど）

Ⅲ．展示部門（講座の活動紹介など）

Ⅳ．その他（図書館、八竜天文台主催イベント、食バザーなど）

（１０）公民館等施設整備事業

八代市公民館に対する市民のニーズは大きく変化し、多様化してきていることから、市民がいつでも安全で安心して学び、交流することができる施設として計画的な整備改修を進める。

〔実施予定工事〕

・公民館ワイヤレスシステム交換工事

・公民館ホール吊天井改修実施設計　など

（１１）自治公民館施設整備費補助事業

町内住民の地域づくり等の集会その他の社会教育活動を行うための自治公民館の整備に要する経費の一部を補助する。

〔補助予定自治会〕

修繕等　１６件（萩原会館　壁面塗装ほか１５件）

補助金額：５，７５１千円

※自治総合センターコミュニティ助成金活用

新築申請　１件（井上町内会）　助成金申請額：１５，０００千円

（１２）自治公民館再建支援事業

令和２年７月豪雨により被災した自治公民館等の復旧に要する経費の一部を補助し、被災からの早期復旧・復興を支援する。（補助率：３/４）

〔補助予定自治会〕

改築、修繕等　１件（西鎌瀬公民館）　　補助金額：２，４７５千円

（１３）その他社会教育関連事業等

①　第６７回熊本県公民館研究大会・令和４年度熊本県社会教育研究大会

・期　日　令和４年１０月１４日（金）

・会　場　嘉島町民会館

・テーマ　今こそチャンス！「つどい」「まなび」「むすぶ」で新しい未来へ

②　第６４回全国社会教育研究大会

・期　日　令和４年１０月２６日（水）～２８日（金）

・会　場　広島県広島国際会議場

・テーマ　多様性を生み出し“百万一心”の心根で未来をつくる社会教育！！

③ 第５２回九州ブロック社会教育研究大会

・期　日　令和４年１０月６日（木）～７日（金）

・会　場　大分県大分市 J:COM ホルトホール大分

・テーマ　「協育」で人と人との絆を紡ぐまちづくり

令和４年度「地域学校協働活動」の主な実践事例（８月までの活動報告分）

種別：地域コーディネーター①　協働活動サポーター②　学習・協働活動支援員③

種別	学校名	取組名
①	代陽小	１年協働活動
①		３年協働活動
①		５年協働活動
②	太田郷小	トイレ除菌作業
①		２，３年校外学習ボランティア要請、撮影
②	植柳小	学習支援
②		１年生下校補助
①		交通安全教室
①		クラブ活動依頼
①		うやなぎ子供の家
①	松高小	地域コーディネーター通信作成
②		プール補助
②		見守り活動
②		習字補助
①	高田小	交通指導員との調整
①		クラブ活動打ち合わせ、調整
①②	八千把小	２年芋の苗植え
②		家庭科ミシン補助
②	郡築小	１年生下校見守り
①	八代小	交通安全教室依頼
①		クラブ活動講師連絡、打ち合わせ
①		引き渡し訓練依頼、打ち合わせ
①	宮地小	稲育苗づくり
①		田植え準備、調整
①	日奈久小	１年下校サポート
②	二見小	お話ポッケ
③	昭和小	放課後子ども教室
①	八竜小	米作り活動講師募集・依頼
②		田んぼ整備、種まき、田植え
②		採点支援・教材づくり補助
①②	千丁小	２年町探検見守り活動
①		職業講話打合せ、依頼
①②		不登校児童支援
②	鏡小	校内消毒
②		水泳指導
②		授業参観時交通整理
①②	有佐小	入学式前中庭草刈り
①②		交通安全補助
①②		歓迎遠足見守り活動
①②		２年生活科校外学習補助
①②		校庭垣根剪定作業
①		有佐小絵画交換
①②		校庭中庭草刈り作業

種別	学校名	取組名
②	文政小	新型コロナ感染症対応除菌作業
②		タマネギ収穫支援
②		スイートコーン苗植え支援
②		遠足見守り
②		ジャガイモ収穫依頼、収穫支援
①		ミシン縫い支援コーディネート
②		サツマイモ苗の植え付け協力依頼、支援
②		校区探検支援
①②		見守り隊との対面式
②		平和学習支援
②		トウモロコシ収穫支援
②		引き渡し訓練
②	東陽小	写真撮影
②		地域探検活動見守り
②		田んぼの指導
③	泉小	放課後子ども教室
②	泉八小	入学記念品づくり支援
②		山菜取り、山菜料理指導
②		校内美化支援
②		学校花壇植栽支援
①②		体験活動(田植え）打合せ、支援
②		プール清掃支援
②		読書活動支援
②		樅木学(ヤマメ釣り）打合せ
②		樅木学（米作り）支援
③	一中	地域未来塾（別室登校生支援）
②	二中	認知症サポーター養成講座
①②	三中	学校園の整備、畝づくり、苗植え
①		職業講話職場訪問、打合せ
①②		地域未来塾（別室登校生支援）
③	四中	地域未来塾（学習支援）
③	六中	地域未来塾（学習支援）
②	八中	みやじ学オリエンテーション
③		地域未来塾(夏休み対応)
②		愛校作業
②		宮地学フィールドワーク講師
①②	日奈久中	イチゴ狩り
②		俳句教室
③		地域未来塾(夏休み対応)
③	二見中	地域未来塾（学習支援）
①③	千丁中	地域未来塾(夏休み対応)
①		職場体験打合せ
③	鏡中	地域未来塾（別室登校生支援）
②	東陽中	運動会写真撮影
②		技術科木材加工補助
②		家庭科裁縫・ミシン補助
②		読み聞かせ
②	泉中	学校の環境整備
①	八代支援	引き渡し訓練
①		地域コーディネーター通信作成

※地域コーディネーターの主な共通の活動

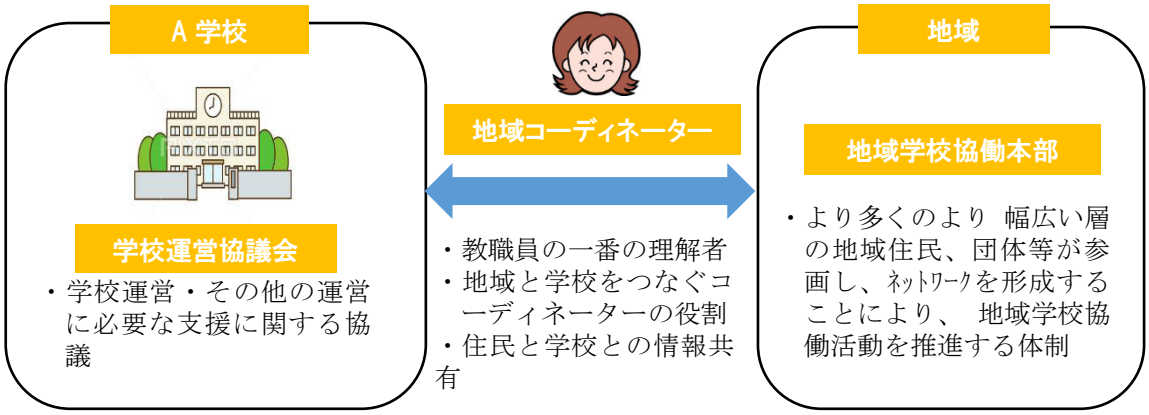
- 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）出席
- 情報収集のための学校訪問
- 校内打合せ（管理職・担当職員等）
- 学校ボランティア募集
- 地域コーディネーター連絡調整会議（協働本部主催）出席

令和４年度学校訪問で見えた地域学校協働活動とＣＳとの関係について

国・県においては、コミュニティ・スクール（以下、「学校運営協議会」という。）と地域学校協働活動の一体的な推進により、地域と学校が連携・協働し、共に子供たちの成長を支える体制が全ての学校で構築されるよう、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組に対して財政支援を行っている。

本来の姿として、地域学校協働活動を活発にしていくために国・県が求めていることとして、

① 地域と学校をつなぐ「地域コーディネーター」がいること
② 地域住民や保護者等が学校運営に参画し、「熟議」を通じて目標やビジョンを共有し、計画・提案・評価等を行う学校運営協議会があること
③ 学校運営協議会で出された意見に対して、その解決に向けて実働する「地域学校協働本部」があること



いわゆる、１つの学校に地域学校協働本部を置き、地域コーディネーターを配置して、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な実施を推進している。

■八代市の場合

・市内１つの地域学校協働本部
・すべての学校に地域コーディネーターを設置している。
・すべての学校で地域学校協働活動が行われている。
・すべての学校に学校運営協議会を設置し、単独、小・中合同の２パターンがある。

各学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的な推進及び連携はできていないのか？

このことについて、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進が図られるための方策について、調査・検討を行うため、学校訪問を行い、意見交換を実施した。

■小・中・特別支援学校で共通する点

【地域との関係について】

・それぞれの校区には、住民自治によるまちづくりが根付いており、学校支援が活発である。
・各校区に設置してある住民自治協議会が地域学校協働本部的な機能を担っている学校がある。
・地域コーディネーターは、住民自治協議会とつながりが多い。
・住民自治協議会の会議に校長が参加している学校が比較的多い。
・教職員が異動しても、地域との関係は、地域コーディネーターに尋ねることができる。
・コロナ禍で地域とのつながりが減少し、交流ができなくなってきている。

【地域学校協働活動や学校運営協議会について】

・コロナ禍で活動は鈍化しているものの、すべての学校で学校支援は行われている。
・地域コーディネーターは学校運営協議会に入っている。
・住民自治協議会の役員が学校運営協議会に入っている。
・他の学校の取組を知りたい学校が多い。
・教職員における地域コーディネーターへの窓口は教頭もしくは主幹教諭が多い。
　管理職以外の教職員では、学校運営協議会や地域学校協働活動についての理解に温度差がある。
・教職員と地域コーディネーターとのコミュニケーションが不足している。

【地域コーディネーターへの要望】

・職業講話のマッチング
・技術や家庭科の補助

【課題やニーズ】

・コロナ対策
・コロナ禍で様々な人との交流ができない。
・そもそも教職員が不足しており、働き方改革ができない。
・複式学級及び少数学級の児童生徒のコミュニケーション能力。
・不登校児童生徒への対応。
・自由に使える予算（特にペットボトル代）

■小学校独自のもの

【地域との関係について】
・住民自治協議会が支援している行事が多い。
・まち探検や農作物の体験活動は、特定の団体・個人がお世話している。
・高齢化が進み、老人会等の協力が減ってきている。

【地域学校協働活動や学校運営協議会について】
・学校支援は中学校より小学校が活発である。
・教職員の中には、ＰＴＡ活動と地域学校協働活動を混同している職員がいる。

【地域コーディネーターへの要望】
・低学年の見守り・給食補助
・まち探検の見守り

【課題やニーズ】
・家庭教育（しつけ）
・中学校と連携した活動をしたい小学校がいくつかある。
・若い先生の指導が難しい。

■中学校独自のもの

【地域との関係について】
・今後、小中合同の学校運営協議会をつくり、学校運営に積極的にかかわる実行部隊をつくっていく。

【地域学校協働活動や学校運営協議会について】
・中学生は自分でできることが多い。
・地域とのつながりが減ったものの、地域のために、部活動単位で環境美化活動を行っている。
・未来塾に取り組んでいるが、地域学校協働活動への取り組みもするべきとの意見が出ている。

【地域コーディネーターへの要望】
・職場体験事業所探し及びマッチングをお願いしたい。
・小・中の兼務で地域コーディネーターにお願いをしているが負担になっている。
・氷川町のように学校運営協議会の委員が実行部隊となり、教職員が手をかけることがないようにしていきたい。
・地域コーディネーターだけではなく、保護者の協力も必要だと思うので、啓発に力をいれるべきである。

【課題やニーズ】
・不登校者には、２学期からオンラインでの対応を考えているが子どもに任せっきりにならないようにしていきたい。
・生徒指導員は、複数校を持っているところは週２回しか来てもらえない。
・部活の支援と人材確保（社会体育化に向けて）
・部活の募集を中止するか継続するかの判断が難しい。
・平日１日でもいいので、部活を見てくれる人材が欲しい。

■特別支援学校独自のもの

【地域との関係について】
・市内全域から生徒がくる。
・松高校区に頼り切っている状態にある。

【地域学校協働活動や学校運営協議会について】
・ゲストティーチャーを招きたいが、コロナ禍でできておらず、地域との連携がうまくいかない。
・生徒の特性から、何回か来てもらい、コミュニケーションを取るなど、生徒もボランティアの方も慣れてからでないと難しいと思う。

【地域コーディネーターへの要望】
・防災教育の評価が低かったので講演会をやりたいと思っている。
・マラソン大会時に交通整理をお願いしたい。

【課題やニーズ】
・教室が不足しており、年々小学部の児童が増えており、図書室や音楽室を普通教室に変えて対応している。

課題整理

１、八代市地域学校協働本部と学校運営協議会との関係について

・地域コーディネーターは八代市地域学校協働本部の本部員である。
・八代市地域学校協働本部会議の内容は、各学校に「協働本部だより」にて情報提供している。
・地域コーディネーターは学校運営協議会の委員である。
・地域コーディネーターは、住民自治協議会とのつながりがある人が多い。
・各学校に地域学校協働本部というきちんとした組織が無くても、地域コーディネーターを含むネットワークを駆使して、地域学校協働活動は行われており、特に小学校においては活発である。
・すべての学校において、地域コーディネーターの存在に感謝されている。
・すべての学校運営協議会において、地域学校協働活動についての報告及び意見交換等が行われている。
・各学校に地域学校協働本部が無くても、それぞれの学校において、地域コーディネーターが地域との橋渡しの役割を担い、地域学校協働活動が行われている。
・ＣＳが活動の母体となっている学校がある。

・各学校に地域学校協働本部が設置されていなくても、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進に問題はないことがわかった。
・八代市地域学校協働本部の役割と支援策を明らかにすることで、それぞれの学校において、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進ができるということがわかった。
・コロナ禍で活動は鈍化しているものの、地域からの支援や住民自治協議会との情報共有等は、できていることがわかった。
・各学校運営協議会の委員には、住民自治協議会の会長を含め役員が入っているケースが多く、連携が取れる環境にあることがわかった。

改めて、八代市地域学校協働本部の役割と支援策を明確にし、本部員である地域コーディネーターと連携強化を図り、併せて、各学校への情報提供を行い、支援策の活用を促していくものとし、学校運営協議会との一体的な推進に寄与していく。

２、八代市における地域学校協働活動の課題

・コロナ禍で、活動が限られている。
・コロナ禍で、地域との交流機会が減っており、学校支援だけの一方通行となっている。
・コロナ禍で、これまでの地域との交流方法等のやり方を忘れてしまう。
・教職員の配置不足により、仕事が繁忙であり、地域学校協働活動まで手が回らない教職員が多い。そのため、地域コーディネーターの窓口となっている教頭・主幹教諭との連携は慣れているが、教職員と地域コーディネーターとのコミュニケーションが不足している。
・学校間で、知識や取り組みに温度差がある。

３、学校における課題

・教職員の配置不足
・不登校児童生徒への対応
・家庭教育（親の学びができていない）
・複式学級への対応
・部活への対応

学校と地域が連携・協働しながら推進していくための支援策

１、八代市地域学校協働本部の役割

・学校及び地域コーディネーターの連絡相談窓口
・広報・啓発活動
・地域コーディネーターの育成、人材確保
・各学校での取り組み状況の把握及び情報共有
・地域学校協働活動の企画力や実行力の向上に対する助言
・ボランティアの募集

２、現在の具体的な支援策

・ボランティア人材バンクの活用促進
・ボランティア保険への加入
・統括コーディネーター3 名の配置及び派遣
・退職校長会との連携
・地域コーディネーター人材育成研修会の開催
・地域コーディネーター連絡調整会議の開催
・協働本部だよりの発行

３、考えられる新たな支援策

・教職員へ研修機会の確保
・教職員へ地域学校協働活動マニュアルの提示

・統括コーディネーターの派遣強化
・先進学校での取り組み発信
・関係課かいとの連携強化
・地域住民への広報啓発
・各種団体への協力依頼
・事務処理簡素化

令和４年８月 22 日（月）10 時～11 時 45 分
八代市公民館 A・B 会議室

教職員との意見交換会（グループ討議）で見えた課題と解決の方向

■Strength（強み・メリット）	■Opportunity（機会・プラス要因）
・地域の視点から意見がもらえる ・人材確保がやりやすくなった ・学習サポート ・人手不足の解消 ・準備の負担軽減 ・教師も一緒になって学んでいける ・地域住民との交流機会が増える ・専門的なスキルの活用が可能 ・安全面・見守りが増える ・教職員が異動しても継続できる ・ミライムで情報共有できる	・社会に開かれた教育課程 ・一学校一地域コーディネーター配置 ・一学校一退職校長会担当者配置 ・統括コーディネーター３名配置 ・一人一台タブレット ・令和４年度国版ＣＳの設置完了 ・ＳＮＳの活用
■Weakness（弱み・課題）	**■Threat（脅威・懸念事項）**
・地域との関係づくり、意見調整が難しい ・打ち合わせの時間が取れない ・最初は手間となる ・事務的手続きが面倒 ・自由に使える財源がない ・情報不足 ・活動に学校間で差がある ・職員の意識に差がある ・継続するための仕組みづくり ・そもそも人員不足で働き方改革できない	・コロナ禍による活動制限 ・少子高齢化、グローバル化、情報化の波 ・子どもの貧困、経済的格差が社会問題 ・不登校等の学校不適応への対応 ・家庭における教育力の低下 ・新学習指導要領の改正 ・教職員の配置不足

■一番弱い部分（Weakness×Threat）

・コロナ禍における地域とのコミュニケーション低下
・地域コーディネーターとのコミュニケーション不足
・教職員への負担増
・不登校児童生徒への対応
・家庭の教育力

■期待できる部分（Opportunity×Weakness）
・地域コーディネーター及び統括コーディネーターの有効活用
・ＣＳの有効活用
・情報の共有
・オンライン授業の活用
・ＳＮＳへ情報発信

■強みと可能性（Strengh×Opportunity）
・すべての学校に地域コーディネーターを配置している
・地域コーディネーターに相談すると地域人材を紹介してもらえる
・事業内容、取り組み方法等について相談できる環境にある（地域学校協働本部の活用）
・モデル的な学校がいくつもある
・すでに学校支援の実績がある

■今後、取り組むべき点
・地域コーディネーターとのコミュニケーション強化
・学校内（教職員間）において、地域学校協働活動について話し合う場の確保（地域コーディネーター同席）
・統括コーディネーターを学校へ派遣
・教職員との意見交換会（グループ討議）の開催
・先行学校での取り組みや手法を提示し、活動を広げる（主にコロナ禍における手法）
・ＣＳにおいて、学校における役割分担の明確化（そもそも家庭でやるべきこと、ＰＴＡでやるべきこと、地域でできること、本来学校がすべきこと等の棚卸しを実施）
・保護者や地域住民へ地域学校協働活動の周知・啓発
・教職員へ活動マニュアルを提示
・ミライムへ情報提供（協働本部だより、他校の取り組み等）
・ＳＮＳの活用（Instagram）

人権教育事業

※H23から「地区内同和教育事業」と合算

○目的　八代市におけるあらゆる差別の解消を図るため、地域人権教育指導員や専門講師を活用し、人権意識の高揚を図る。また、各種大会、研修会に参加し、資質向上を図る。
人権教育活動の拠点である西宮・上日置集会所で行う解放学習会等を支援するとともに、建物の維持管理を行う。

○全体計画　地域人権教育指導員の設置、各校区での人権教育研修会の実施、各種大会・研修会への参加。
小・中・高生の学習支援、地区内住民の解放学習、解放子ども会事業、地区内同和教育事業、集会所建物維持管理等の実施。

○予算額の推移（当初予算ベース）

H30年度：6,655千円　財源内訳：県支出金　840千円、一般財源 5,815千円
R 1年度：6,625千円　財源内訳：県支出金　845千円、一般財源 5,780千円
R 2年度：7,821千円　財源内訳：県支出金　　千円、一般財源 7,821千円
R 3年度：13,951千円　財源内訳：合併特例債 5,800千円、一般財源 8,151千円

○令和４年度の主な事業内容

・ 地区内同和教育事業　10名の講師により地区住民の解放学習の実施
講師謝金　1,500千円（R3：1,500千円、R2：1,500千円、R1：1,600千円、H30：1,600千円、H29：1,600千円）
・ 解放子ども会事業　地区内の小・中・高生に対する学習会や体育スポーツ・レクリエーション等の開催
事業委託　219千円（R3：219千円、R2：219千円、R1：243千円、H30：243千円、H29：243千円）
・ 地区内人権教育事業　地区内における学習計画の立案や解放講座等の開催
事業委託　450千円（R3：千円、R2：549千円、R1：609千円、H30：609千円、H29：609千円）
・ 集会所維持管理経費　1,255千円（施設修繕37千円、管理人謝礼190千円、光熱水費694千円、警備・清掃管理等128千円）
・ 人権教育研修　※人権社会確立全九州研究集会（福岡市）、九州地区同和教育夏期講座（長崎市）、人権教育研究大会等
熊本県市町村人権同和教育連絡協議会先進地視察（京都市）

・ 第49回熊本県人権教育研究大会八代大会　令和3年10月2.3日；1日目オンデマンド研修、2日目；11分科会(7会場）開催　約1,500人の参加
・ 地域人権教育指導員　※当面、設置しないことで確認済：2,045千円（報酬 146,100円×12ヶ月=1,753,200円）

課名	事業名	R3予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	人権教育事業 （旧：人権教育事業＋ 地区内同和教育事業）	13,951	4,311	△ 9,640					4,311	地区内人権教育講師謝礼：1,500千円 八代解放子ども会事業委託：219千円 地区内人権同和教育事業委託：450千円

学校・家庭・地域の連携協力推進事業

○目的　近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、家庭や地域の教育力の低下が見受けられる。未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚し、地域社会全体で子供たちを守り育てる環境づくりを構築する。
本事業では、地域学校協働活動（様々な学校協力活動）（放課後子供教室）（地域未来塾）の教育支援活動を積極的に実施することにより、地域の実情に応じ、地域の力を活かして子供を健全に育てることで、各事業の円滑な実施を図る。

○全体計画
・令和2年4月に八代市地域学校協働本部を設置し、教育部長を本部長とし、学校支援活動を継続的・安定的に活動を実施できるよう横の連携に努める。また、各学校に地域コーディネーターを配置している。
・「地域学校協働活動」事業については、H29年度から第三中学校区にて事業を行っている。R2年度より、15小学校、5中学校、1支援学校で実施。R3年度よりすべての小中特別支援学校にて事業実施。
・「放課後子供教室」事業については、昭和小、泉小にて事業を展開している。（郡築小はR2年度より、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの確保ができず中止）
・「地域未来塾」事業については、塾の講師や教員ＯＢ等を学習支援員として、塾に通えない子供たちに学習習慣を身につけさせることや学力向上を狙い実施している。R3年度は、第一中・第三中・第四中・第六中・日奈久中・二見中・鏡中にて実施している。
・地域コーディネーターの人材育成が課題となっているため、県の人づくり講座を活用し、研修を実施し、地域社会全体で学校運営を行っていくことの必要性について、地域コーディネーター及び教職員等の意識を変えて行く取組を実施している。

○予算額の推移（当初予算ベース）

H28年度：3,546千円　財源内訳：県支出金 2,038千円、一般財源 1,508千円
H29年度：3,537千円　財源内訳：県支出金 2,075千円、一般財源 1,462千円
H30年度：2,885千円　財源内訳：県支出金 1,689千円、一般財源 1,196千円
R1年度：2,984千円　財源内訳：県支出金 1,936千円、一般財源 1,048千円
R2年度：3,704千円　財源内訳：県支出金 2,429千円、一般財源 1,275千円
R3年度：6,535千円　財源内訳：県支出金 3,741千円、一般財源 2,794千円

○令和4年度の主な予算額

・報償費：6,220千円
地域学校協働活動：基礎予算額　120千円×39校
会議出席時報償費（本部会議・連絡調整会議・CS）：1千円×20時間×39校
学校の働き方改革を踏まえた活動：（1千円×4時間×12月＋800円×65時間）×27校
放課後子供教室学習指導員：1.2千円×1.5時間×50日＋800円×1.5時間×3人×50日）×2校
地域未来塾：2千円×10時間×11月×10校
・消耗品費：390千円
地域学校協働活動事業運営消耗品：10千円×39校

○その他
参加児童数（H29年度実績）　郡築小　29人（1年～2年生）　昭和小　19人（1年～3年生）　泉小　14人（1年～2年生）
参加児童数（H30年度実績）　郡築小　31人（1年～2年生）　昭和小　22人（1年～3年生）　泉小　13人（1年～2年生）
参加児童数（R1年度実績）　郡築小　34人（1年～2年生）　昭和小　25人（1年～3年生）　泉小　13人（1年～2年生）
参加児童数（R2年度実績）　郡築小　（中止決定）　昭和小　25人（1年～3年生）　泉小　13人（1年～2年生）　八竜小　2学期20名（1年～2年生）
参加児童数（R3年度実績）　昭和小　25人（1年～3年生）　泉小　8人（1年～2年生）
地域未来塾参加生徒数（R3年度実績）第四中3～1年生30人・第六中3年生18人・二見中3年生4人・日奈久中3～1年生28人（夏休みのみ）
第一中別室投稿者延べ169人・第三中別室登校者延べ342人（1/1現在）・鏡中別室投稿者延べ125人
熊本県人づくり講座の開催 人材育成講座（第1回：27人、第2回：27人、第3回：53人）

課名	事業名	R3 予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	学校・家庭地域の連携協力推進事業	6,535	6,718	183		4,460		28	2,230	・様々な協力活動：39校 ・放課後子ども教室（小学校）：2校 ・地域未来塾（中学校）：9校

社会教育事業

○社会教育委員会　　目　的　　教員委員会の諮問機関としての活動や青少年教育に関する指導的な活動等を行い、多様化する社会教育のニーズを施策に反映す

委員の設置　委員数 委員会議の開催　委員報酬　177千円(5,900円×10人×3回)（12人：うち2人は校長会代表）

九州ブロック社会教育研究大会(長崎市)、熊本県社会教育委員連絡協議会理事会等への参加

費用弁償:23千円　　負担金：39千円(熊本県社会教育研究大会2,500円×13人他)

機関紙「社教情報」等の購読:29千円

○社会教育指導員　　目　的　　市民の社会教育活動に対する指導及び助言を中心に生涯学習の支援に関する業務を行う。

社会教育指導員給与：4,043,520円(112,320円×3人×12月)　　期末手当（6月：12月741,312円）

社会教育指導員社会保険料:767,550円（4,877,976円×156.35/1000）雇用保険43,902円（4,877,976円×9.00/1000）

○社会教育団体　　目　的　　本市における社会教育の振興を図るため、団体の実施する事業に対し補助及び人的支援を行う。

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度	3年度	4年度	
市ＰＴＡ連絡協議会	181千円	181千円	181千円	685千円	665千円	645千円	581千円	571千円	513千円	513千円	513千円	26年度まで委託金
市地域婦人会連絡協議会	1,700千円	1,700千円	1,649千円	1,514千円	1,464千円	1,419千円	1,277千円	1,220千円	1,098千円	1,098千円	1,098千円	
市子ども会連合会	1,250千円	1,250千円	1,113千円	865千円	839千円	813千円	725千円	445千円	265千円	240千円	240千円	

○二十歳の集い　　目　的　　民法改正により、二十歳において次代を担う若者達を激励し、祝福するため開催する。

二十歳での実行委員会を組織し、八代市二十歳の集いの企画運営を委託し、実施する。

開催日：令和5年1月8日(日)(予定)　　場　所：八代トヨオカ地建アリーナ（八代市総合体育館）（予定）

対象者：平成14年4月2日～平成15年4月1日生

二十歳の集い企画運営委託料：1,000千円　交通誘導警備委託料等：456千円　　施設使用料：480千円

○協議会負担金　　熊本県社会教育委員連絡協議会:5千円

○その他の社会教育事務経費　　事務用品、パフォーマンスチャージ料、公用車車検代、郵便料　　1,138千円

課名	事業名	R3 予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	社会教育事業	11,501	11,611	110					11,611	社会教育委員報酬　177千円 社会教育指導員給与　4,833千円 社会教育団体補助金　1,851千円 二十歳の集い開催経費　2,166千円

青少年体験活動事業

〇目的　小学生を対象に、各種の生活体験や自然体験等の体験講座を開催し、家庭や学校で経験できない活動を通じ、他校の児童、生徒及び異学年との触れ合いを通して子ども達の健全育成を図る。

〇全体計画　豊かな自然の中での野外活動や集団生活を通じて自主性や協調性を育み、地域との交流を深めながら豊かな感性と健全な心身の育成を図る。また、親子で共に体験活動を行い、驚きや感動を共有し親子の絆を深め、市内外各地域を会場として体験プログラム（キッズチャレンジ）を企画し、開催する。

〇予算額の推移（当初予算ベース）

H31年度：　717千円　財源内訳：その他（参加料）518千円、一般財源 199千円

R2年度：　617千円　財源内訳：その他（参加料）383千円、一般財源 234千円

R3年度：　595千円　財源内訳：伝統文化親子教室事業委託金 87千円、その他（参加料）383千円、一般財源 234千円

〇令和4年度の主な事業内容（予定）

- キッズチャレンジ2022「アウトドアスクール」
  会場：県立豊野少年自然の家　参加対象者：小学4～6年生の児童及び高校生ボランティア　約40人
  日程：2泊3日（夏休み）　内容：野外炊飯・勾玉作り・キャンプファイヤー　他
- キッズチャレンジ2022「子ども陶芸教室」
  会場：赤星公園・水竹居の館　参加対象者：小学3～6年生の児童　約40人
  日程：1日（夏休み）　内容：陶芸体験
- キッズチャレンジ2022「宿泊体験活動」
  会場：坂本青少年センター　参加対象者：小学4～6年生の児童　約24人
  日程：１泊２日　内容：トレッキング・藍染体験・工作　他
- キッズチャレンジ2022「親子体験教室」
  会場：坂本青少年センター　参加対象者：小学1～4年生の児童・保護者　約15組30人
  日程：1日　内容：しめ縄作り・郷土料理調理体験　他

増額：**委託料**4千円（マイクロバス運転委託）
減額：**報償費**△5千円（講師謝礼）、**需用費**△16千円（消耗品費）　等

参加者負担金（傷害保険料含む）

課名	事業名	R3 予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	青少年体験活動事業	595	579	△ 16				358	221	講師謝礼・マイクロバス運転業務委託料・施設使用料・賄材料費・消耗品費　等

生涯学習推進事業

○目的　市民が、生涯にわたって、気軽に、誰でもが、芸術文化活動、スポーツ活動、社会参加に通じる学習活動などに参加することができ、その成果を適切に生かすことのできる地域社会の実現を目指す。

○全体計画　市民の教育力の向上を目指し、世代別・地域別等の学習ニーズに応じた「おでかけ公民館講座」をはじめとした体験型学習講座を開設する。
家庭の教育力の向上を目指し、小中学校や幼稚園、保育園ごとに「家庭教育学級」を開設し、学習支援を行う。
「まなびフェスタ」を開催し、市内の学習活動を広く市民へ紹介するとともに、舞台発表や作品の展示等を通した学習成果の発表の場を提供する。

○予算額の推移（当初予算ベース）

H31年度：2,709千円　財源内訳：その他（受講料）694千円、一般財源 2,015千円
R2年度：2,469千円　財源内訳：その他（受講料）531千円、一般財源 1,938千円
R3年度：2,320千円　財源内訳：国（伝統文化親子教室事業委託金）245円、その他（受講料）321千円、一般財源 1,754千円

○令和4年度の主な事業内容

- 家庭教育学級：194千円（講師謝金175千円、講師旅費9千円、消耗品費6千円　他）
  ①市内保育園、幼稚園、小・中学校単位による学級開設（令和2年度実績：59学級）
  ②全体研修会（市内全学級を対象とした研修会を開催）
- 公民館講座：1,507千円（講師謝金921千円、講師旅費56千円、消耗品費444千円、冷暖房使用料8千円、通信費60千円　他）
  かんたんスマホ講座、ＩＴキャリアアップ講座、防災講座、健康講座、人権講座など30講座を開催予定
- まなびフェスタやつしろ：927千円（団体等謝金166千円、講師派遣委託660千円、消耗品費42千円、印刷製本費28千円　他）
  講演会、学習クラブ活動発表、食バザー、体験講座、学習作品展示、人権啓発作品展示　等

増額：報償費 430千円(講師謝礼等)、**旅費** 31千円（講師旅費）
減額：旅費 △26千円(講師旅費)、**需用費** △18千円(講座用消耗品費等)

講座受講料　803千円

課名	事業名	R3 予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	生涯学習推進事業	2,320	2,721	401				803	1,918	講師謝礼、消耗品費、 まなびフェスタやつしろ開催経費

図書館管理運営事業

○目的　生涯学習の中核施設及び地域の情報センターとして、市民の読書活動、学習活動、調査研究活動等を支援し、市民の教育と文化の発展に寄与するため、必要な図書資料等を収集、整理、保存し貸出又は閲覧に供するとともに、読書活動を推進する自主事業等を行い、学習活動や文化活動の機会を提供する。

○全体計画　平成２７年度から指定管理者制度を導入し、委託を行っている。令和2年度から再契約し、3年目となる。
２０万円を超える修繕等を計画的に行う。

○予算額の推移（当初予算ベース）

H30年度：　130,369千円　財源内訳：その他（使用料他）　814千円、一般財源　129,555千円
H31年度：　131,064千円　財源内訳：その他（使用料他）　642千円、一般財源　130,422千円
R2年度：　142,448千円　財源内訳：その他（使用料他）　642千円、一般財源　141,806千円
R3年度：　140,641千円　財源内訳：その他（使用料他）　842千円、一般財源　139,799千円
※H27年度から指定管理制度導入により、本館・せんちょう分館・かがみ分館を含む運営経費となっている。

○Ｒ４年度の主な予算額

- 委託料：133,861千円　指定管理委託料
- 修繕料：400千円　施設設備修繕（リスク分担対応分）
- 報　酬：95千円　図書館協議会委員報酬
- 委託料：2,614千円　図書システム保守点検委託
- 使用料：3,657千円　図書システム及び機器リース代

指定管理委託料
指定管理期間：　R2.4.1～R7.3.31(5年)
委託先：TRCグループ共同企業体
委託金額：総額　670,208千円

（年度内訳）　2年度　134,764千円
3年度　133,861千円
4年度　133,861千円
5年度　133,861千円
6年度　133,861千円
※令和2年10月1日より、分館時間短縮：−1,806千円

○Ｒ３年度の主な事業内容

- 電子書籍1,100コンテンツ導入
- 移動図書館運行ルートの見直し
- 図書館協議会の開催
- ブックスタート事業
- 児童生徒タブレット端末からの電子図書館利用促進

課名	事業名	R3 予算額	R4 査定額	増減	財源内訳					主な内容
					国	県	市債	その他	一般財源	
生涯学習課	図書館管理運営事業	140,641	140,833	192				842	139,991	指定管理委託料 修繕料